5. 解説「関連データ・用語・仕組み」: 観光とツーリズム

そもそも「**観光**」と云う用語の出自は何か。文献によれば、『「観光」と「漫遊」、そして当時の周遊行動を表した「遊覧」の3つの概念が明治時代の後期から「観光」に収れんされ、これには観光事業と政策が大きく関わっていることがわかった。2つ目は日本国内の経済、社会、地域の変化が大きく影響し、観光の概念が「観る」だけでなく、「示す」という意味をも含める形で外延化している』と整理されている。
出典:論説 「観光」概念の変容と現代的解釈 千 相哲 商経論叢 第 56 巻 第3号 2016 年
http://repository.kyusan-u.ac.jp/dspace/bitstream/11178/267/1/sen56-3.pdf

それでは、「観光」と「ツーリズム」の違いは何か。JTB 会長は「**観光**はレジャーや休暇の印象が強いのに対し、**ツーリズム**は往来の自由が保障された状況下での人的な交流促進を示す。風光明媚な、あるいは歴史的な場所を探訪する「観光」は「ツーリズム」の一形態だが、これがすべてではない。」と述べている。
出典:「観光とツーリズムは違う。旅行業界は浮かれず成長に備えよ」(JTB 会長) 田川博己氏が語る、現代版「外客誘致論」 2018 年 02 月 24 日 日刊工業新聞 https://bit.ly/3cDTiuu

そして、観光庁は、「**ニューツーリズム**とは、従来の物見遊山的な観光旅行に対して、これまで観光資源としては気付かれていなかったような地域固有の資源を新たに活用し、体験型・交流型の要素を取り入れた旅行の形態です。活用する観光資源に応じて、エコツーリズム、グリーンツーリズム、ヘルスツーリズム、産業観光等が挙げられ、旅行商品化の際に地域の特性を活かしやすいことから、地域活性化につながるものと期待されています。」としている。
出典:観光庁 HP https://bit.ly/33gOKr7

こうした流れの中で、インバンドの高まりとともに、コロナ禍前に注力されていたのが着地型観光である。「着地型観光(着地型観光商品/着地型インバウンド)とは、旅行者の受入地域で開発される観光プログラムのことです。旅行者は、訪問先現地で集合、参加し、解散するような観光形態がとられます。特にインバウンドにおいては、観光立国のための重要課題である地方誘致促進に効果があるとして、注目を集めています。」とされていたが、コロナ禍でその勢いがそがれた。
出典:着地型観光とは? 最近インバウンドでも話題 地方誘致の促進なるか 訪日ラボ編集部
公開日:2016 年 11 月 16 日 更新日:2020 年 08 月 19 日 https://bit.ly/339rniV

そして、コロナ禍を受け、星野リゾートが「**マイクロツーリズム**」を提唱している。マイクロツーリズムとは、「遠方や海外をイメージすることが多い『旅』を、地元に目を向けて楽しむ『マイクロツーリズム』を推進することで、コロナ期の旅行ニーズに合わせたサービスや、地元を深く知るきっかけ作り、そして感染拡大を防止しながら地域経済を両立する観光など、新たな旅のあり方を創造し、提案します。」と云う。その「マイクロ」とは、「自宅から 30 分~1 時間の自家用車で行ける範囲であまり行かなかった所」と説明している。
出典:【星野リゾート】星野リゾートが提案する「マイクロツーリズム」~地域の魅力を再発見し、安心安全な旅 With コロナ期の旅の提案~ 星野リゾート HP https://bit.ly/3n03P8a